



SAFの認知向上のために必要なこと



ANAホールディングス株式会社 上席執行役員 グループCSO
宮田千夏子

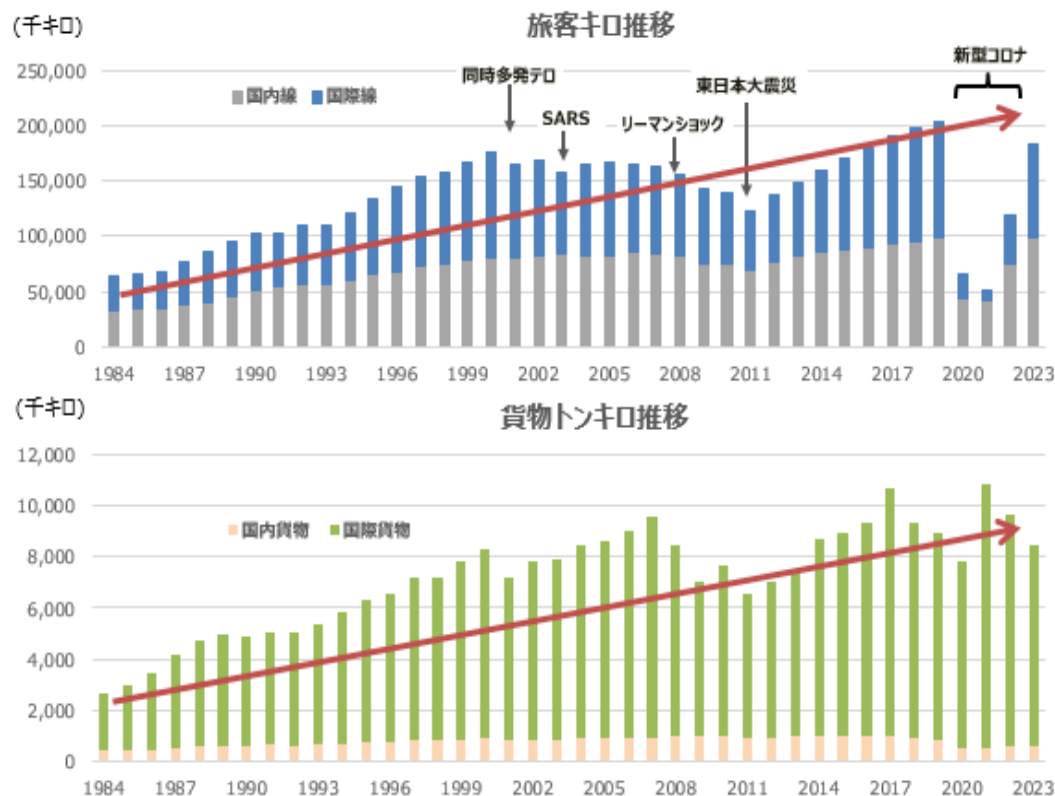


日本における航空の果たす役割



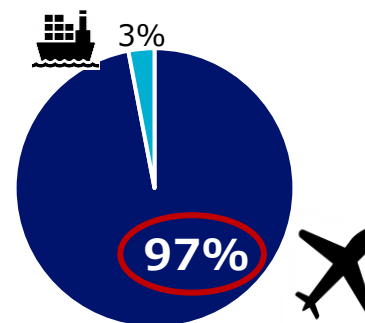
- 日本において航空は各産業の足元を支える、重要な『社会インフラ』のひとつ
- 今後も増え続ける輸送需要を満たし、『日本経済の基盤を支える』役割が求められている

本邦航空運航事業者の輸送規模の推移
(1984～2023)



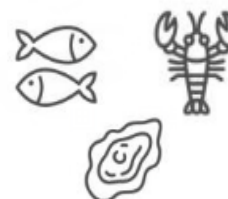
※国土交通省航空輸送統計データより作成

日本の国際輸送分担率
(2019)

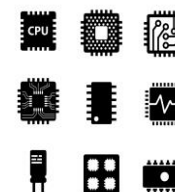


出典：国土交通省

海産物



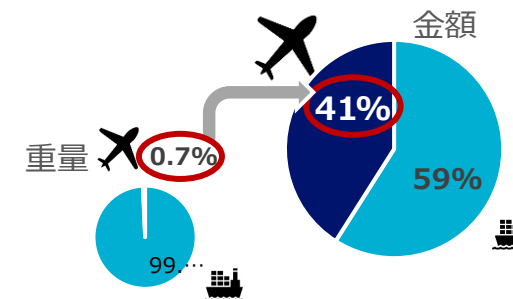
半導体



医薬品(ワクチン)



日本の輸出入品の重量・金額
(2020)



出典：みずほフィナンシャルグループ



航空脱炭素に向けたANAの取り組み



● 『日本経済の基盤を支える』役割を担うため、ANAは脱炭素への取り組みを先駆けて推進

新技術の活用



- サメ肌加工を施した機材の導入で、1機当たり年間約**800t**のCO₂排出量削減見込み
- **DAC技術**の1PointFive社と航空会社として世界初の契約

運航上の改善



- 社内で「グリーンオペレーション推進委員会」を立ち上げ、精力的に活動
⇒2023年度実績で**約1%**の燃費削減効果(B787で地球約30周分)

機材更新の促進



- 2011年より、**Boeing 787型機**を世界初導入
- 現在、84機運用中で世界最大の787オペレーター

SAF



- 2020年、アジアの空港発となるSAFサプライチェーンを構築(羽田・成田)
- 2021年、**国産SAF**を羽田発の定期便で使用 (NEDOプロジェクト)
- **SAF Flight Initiative**の立ち上げ (2021年～)



SAF Flight Initiative (サフ・フライト・イニシアチブ)



● 参加企業と協力して産業横断的にSAF利用を推進する、パートナーシップ・プログラム

- ① 出張時、貨物輸送時の間接CO₂排出量（Scope3）の「見える化」を支援
- ② SAF利用による「CO₂削減証書」を第三者認証付きで発行（輸送実績と紐づけたデータ管理）
- ▶ ③ 参加企業の企業価値向上





SAFの認知度向上のために必要なこと



- SAFに関する認知度は、いまだ発展途上（航空局様認知実態調査より）
- 認知度向上のためには、『航空会社の脱炭素の取り組みに対する理解促進』に加え『SAFの利用促進に向けた皆さまのご協力と仕組みづくり』が必要ではないか
 - ✓ 脱炭素につながるサービスの積極的なご活用
 - ✓ （官民を問わず）多くの皆さまからのご理解とご協力



- トランジションにかかるコストを輸送事業者だけで負担し続けることは構造的に困難
- 脱炭素にかかるコストを社会全体で担う仕組みづくりに加え、航空脱炭素を更に推進するために、SAFの認知度向上の先を見据えすべきことは？



ご清聴ありがとうございました

ANAホールディングス株式会社 上席執行役員 グループCSO
宮田千夏子